

『誰もが憧れる上質な生活都市くまもと』を目指して



熊本市消防局長 西山 博之

熊本市は、九州のほぼ中央に位置し、古来より政治・経済・文化などの拠点として栄えてきました。豊かな緑、豊富で清潔な地下水などの自然環境に恵まれるとともに、日本三名城の一つに数えられる熊本城をはじめ、剣豪 宮本武蔵や文豪 夏目漱石などの数多くの史跡・旧跡が残るなど、自然、歴史、文化の中に都市機能が調和した近代都市です。

本市は、平成24年に近隣町との合併により全国で20番目、九州で3番目の政令指定都市となり今年で5年目を迎えます。

本市の施策としては、「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと (Quality of Living City)」を目指しており、九州の中央にある地理的優位性や、歴史、豊かな自然など本市特有の地域性を生かしながら、全ての人が充実した生活を送れる都市の実現に向けて、市民と行政が協力し合い取り組んでいます。

さて当局は、熊本市域及び近隣町村（上益城郡益城町、阿蘇郡西原村）を含む管轄人口約77万人、管轄面積約532km²に、1消防本部、5消防署、16出張所、2庁舎を配置し、780人（平成27年4月1日現在）の消防職員が災害等に対応し、地域住民の安全・安心の確保に努めています。

また、「災害対応力の強化」、「救急救助体制の強化」を主要事業の骨格として様々な施策を展開しているところです。

特に、住宅火災や防火対象物の防火安全性の確保を積極的に推進しているほか、機能別消防団員制度や女性消防団員の加入促進、更に消防団協力事業所の推進により地域防災体制の充実強化を図っているところです。この取り組みが評価され、昨年、一昨年と総務大臣より表彰を受けたところです。

消防機能の充実として、本年4月には新たに北消防署が整備され、1行政区1消防署体制が実現し地域における防災拠点機能が充実することとなります。これに伴い、近年消防行政が抱える様々な課題に迅速・的確に対応できる組織づくりの構築として、業務の再確認を行い、将来を見据えた人材の育成と、時代の変革に即応できる組織の活性化が最も重要であるとの考えから、消防署組織体系の改善を図ることとしています。

具体的には、事務処理体制の見直しを行い、多種多様な業務に精通する職員の育成を図り、住民サービスや地域防災力の向上を目指すものです。

更に、増加する救急需要に対しては、より質の高い救急医療体制を構築するため、関係医療機関と協力体制のもと救急ワークステーションの充実強化や、指導救命士制度の導入による専門知識や技能の向上といった教育体制の強化を図っているところです。

また、救助技術の高度化・専門化を推進し、近年多種多様化する大規模災害やNBC災害などの特殊災害に対応できる隊員の育成と、九州の中核を担う政令市緊急消防援助隊として応援・受援体制の充実強化を行っています。

最後に、「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと」を目指し、様々な課題に適切に対応するとともに、事務受託管内を含めた住民のニーズに的確、柔軟に対処し、安心・安全の負託に適切に対応できるよう職員一丸となって鋭意努力してまいります。